

3 『天然の活性化低分子抗酸化剤 (SOD 様作用食品)』が奏効した難治性尋常性乾癬の1例

○寺嶋 亨 小林裕美 水野信之 石井正光
(大阪市立大学医学部皮膚科)

[緒言] 難治性皮膚疾患のひとつである尋常性乾癬のオーソドックスな治療法には現在、ステロイド外用、活性型ビタミン D₃ (タカルシトール) 外用、PUVA療法 (紫外線照射)、エトレチナートおよびシクロスポリン内服などが挙げられる。実際の臨床の場では軽症例には活性型ビタミン D₃ (タカルシトール) やステロイド外用が使用されている。PUVA療法もよく用いられる方法の一つであるが通院の頻度が増加するため患者さんのコンプライアンスが良いとは言えない。重症例になると以上のような外用治療などでは効果に乏しく、エトレチナートやシクロスポリン内服を余儀なくされるが、これらは様々な副作用や問題点を考慮しながら治療に用いなければならない。昨今、過剰な活性酸素や過酸化脂質が関連した炎症性疾患に superoxide dismutase (SOD) 様作用を有する天然の活性化低分子抗酸化剤が使用され、その有効性が認められている。今回、ステロイド外用、紫外線照射をはじめ、エトレチナートやシクロスポリン内服にも抵抗性で全身性に乾癬性紅皮症を呈した症例に天然の活性化低分子抗酸化剤を使用し著効を示したので報告する。

[症例] 26歳、男性。小学生時、乾癬を発症した。当初ステロイド外用で軽快していたものの徐々に増悪し、乾癬性紅皮症を呈するようになった。エトレチナートやシクロスポリン内服にも抵抗するようになったため、平成10年9月から天然の活性化低分子抗酸化剤 90 g/day 内服を開始した。

[結果] 効果判定は Psoriasis Area and Severity Index (PASI) を用いて評価した。天然の活性化低分子抗酸化剤内服後、約4ヶ月で PASI 58.3 から 3.8 (改善率 93%) へ改善を認めた。